

語林類葉

あ

壹

第四號

函 参

ホ 2

502

1

45

50

55

60

65

70



語林類集卷之一

阿行

あひゆ

二言

あ、疑辞く。カ、エ、イ、ウ

源氏若菜上きくくにみもりほくくうきえあ
くうぬき内きり。

あー果 悪

之系のあー宰相家政 統世継 ちのちろも ○あー法眼



延喜式

草木

阿都加

多武峯生院哥合 美作

多武の池に生くまきる厚氷あをもよ葉のくまきる

あをのくまきる

三言

あうお 赤子

袂衣一下ハあうおのじりきりしつゝあをのくまきる

続世継 あうおにあうおに

あうぬ 縣

あうぬの井戸 後撰 ○土佐日記

拾遺要草上 見ゆきぬ。あうぬの井戸

古本

あうぬ 續

みあかしの

○公事根源神祇官献御贖物あをのくまきる
むもあうぬのくまきる人形をゆつてあをのくまきる
事あぬのくまきる古事記に仲哀天皇の豊浦
るにあをのくまきる時をゆつてあをのくまきる

壬二集上 六十九

ふつと昔もたもわひえてさへし世のそとをこふ
○後拾遺雜四つあつたのそとをこふてはるる大盤所
ちうくのちてはるるをこふてはるる大盤所
もほつたつはの神話なるをこふてはるる大盤所

あきさ 鳥名。小鳥之或云秋後鳥とす。あきさといふ。
五代秋上 後徳大寺大臣

頼政集
あきさのちてはるるをこふてはるる大盤所
同
あきさのちてはるるをこふてはるる大盤所
あきさのちてはるるをこふてはるる大盤所

あかき 月日の

新六あき 信多
あかきのちてはるるをこふてはるる大盤所
あかきのちてはるるをこふてはるる大盤所
あかきのちてはるるをこふてはるる大盤所

あくむ 欠

源朝新まにあくむらー多ひて。讃岐日記えけぬ
あくむのちてはるるをこふてはるる大盤所
あくむのちてはるるをこふてはるる大盤所
あくむのちてはるるをこふてはるる大盤所

あさひ 朝菜。朝菜。朝食の種も。夕菜。夕菜。
あさひ 朝菜。朝菜。朝食の種も。夕菜。夕菜。
あさひ 朝菜。朝菜。朝食の種も。夕菜。夕菜。

あさひ

五六

普丹集

准馬車 我門

あさひ 朝菜。朝菜。朝食の種も。夕菜。夕菜。
あさひ 朝菜。朝菜。朝食の種も。夕菜。夕菜。
あさひ 朝菜。朝菜。朝食の種も。夕菜。夕菜。

古方

あさひ 朝菜。朝菜。朝食の種も。夕菜。夕菜。

○

あさひ

あさひ 朝菜。朝菜。朝食の種も。夕菜。夕菜。

あさひ 朝菜。朝菜。朝食の種も。夕菜。夕菜。

あさひ 朝菜。朝菜。朝食の種も。夕菜。夕菜。

あさひ 朝菜。朝菜。朝食の種も。夕菜。夕菜。

あさひ 朝菜。朝菜。朝食の種も。夕菜。夕菜。

あさひ 朝菜。朝菜。朝食の種も。夕菜。夕菜。

七

大将ヲアママ
ル也トイヘリ
○古事 濟政
○二 言何々の大納言
頭雅六

ノオホイ殿
ノ御子
○統世 継世
○越前侍從 家隆
○拾遺 草

○環中納言 兼輔
○拾遺 意又
○大和物語 之

○五條三位 後成
○あて 一の宰相
○仲兼 官班

羅大将
○八条大 大鏡二
○多原光隆 号
○能登大夫 法

改名資基
○袖中 二
夕十八夕ツノ袋中子
○ふらふら の論

○扇中納言 志輔
○長明 無名上
○源野 の宰相

○南助 南大納言男
○文粹 一慰小男

○袋中子 引挟手丸
記云大伴宿禰
○伏手丸

妻字奈刀自
○廣幡中納言 頭光
○兼光 兼光

○兼光 兼光

○兼光 兼光

○兼光 兼光

○兼光 兼光

○兼光 兼光

○兼光 兼光

○兼光 兼光

○兼光 兼光

○兼光 兼光

○三耀 三善
○文琳 文屋

新古雜下 さししたあて長ふぬとらきてあしゆ

高云集同

後拾雜 長能

葉元根合ハハいけのゆき 田代きみきりきりともあ
し葉あてふとるもあてのちちしとをか
東方集

葉元とり元スリ〇盛衰記十二洲崎ニサワク鴛鴦

鷗ノ草キヲ昏テル心地ス

移送賢 あまののちあてあうらゆかに

玉玉雜ニ 大信正の巻
夕らまにああをあまをききみきいふうはまのあてく

あそむ 遊女

隆信集下 あまむたさるる意

浪の上におのふ紫めをくさむあまかーつまん名ちさうく

六百番哥合有身遊女意多侘儷意〇うつ不祭使

あそむあまひりあそむ〇源 みるつー あまむともゆつ

玉玉波ノ遊女トモノ源兵ノスミ
ヨシマウテニツトロミ井ルナリ

あそむ

玉アラレニ雜セミイカ

長明無名抄上大和國うつきめういあそむゆめ

あそむ事あし〇市丸日かきさの暇の下界へりてあそむし

あそむ

を竹水の前日...
むきあえて...

あきげ あき...き気

源朝敵...
一...〇司 同

いぼ...
夫木世一 常盤井入 遠太政大臣

山...
〇

あき...
あき...き気

あき...
〇

あき...
あき...き気

袂衣...
〇

散木...
あき...き気

夫木世六

源夕...
あき...き気

夕...
トリ...

年閏八月十五日朝干飯御座前西壺分
百前我合○紀畧一延喜元年八月廿五日
百前我合事○詞元

紅葉 五代秋下天曆九年閏九月門裏紅葉合の事

箱 伊勢集小箱合

扇 天祿四年七月七日扇合增送雜秋○今葉秋大皇
大后之扇合に○夫木廿五寛治三年八月四日
○扇合所説人不知○今葉秋大皇大后之扇合經信

百和香 永保三年准后倫子家侍百和香合哥丈木

物語 後拾雜一月五日云系在祇院中抄有○葉元
相の後一丁あはれあはれとていほありつるつる後拾
明同時○

紅梅 言光集

多手物 源氏梅枝

梅花 白紅 梅色は、切錦梅花よりきくまゝあはれ色は、
紅よりあはれ。

下文再出
草子

後二任後原親子家の子に時多と云々 頭香 全葉を
○全葉を上に後二任後原親子家の子に時多と云々
法源 師

葉 寛平葉合

了
金葉

種

今昔廿八 後一條ノ院ノ天皇ノ御代ニ殿上人
蔵人有ル根負ヲ尽シ種合ニ為ル
ルヤ拾云

女郎花

古今物名未雀院即專のをくあ一あきの時にも
下といふいれも一を句の叩らにおきてを免す。

上文之出

雙紙

東鑑口一 建曆三年正月十二日甲寅幕
府女房等有雙紙合會將軍家令判之給 ○

毛

中野集申云の毛の毛を世に河原の毛と云ふ
毛の毛の事ありて九月七日

今様

百練抄云 康安四年九月二日於太上天皇
御所法任有今様合事權定堪能筆其人
五箇夜殿毎夜一番被決雄師長資賢等
御為判者十三日仙洞今様合之次有御遊
上皇令歌今様給希代之美談也

袂衣 一下三
人々のまじりにあそびてありぬくありあう
まゝにいとく見あそびて遊糸日記をあらけ
かきしききしきものまじりて一巻の源東屋あ
らうあゆみの思ふ人あそびておろし
しし奥ヲ音便あそびぬる。

あうまの 調伽棚

言野日記あそびあそびあそびておろし
あそびしきそのまじり調伽棚をぬる。源氏鈴虫あそびの棚
あそびしきそのまじりあそびせし。

あゆみ免 アカラサマノアカラニカナシクイサヨクマラシカフ

あゆみ免 アカラサマノアカラニカナシクイサヨクマラシカフ

あゆみ免 アカラサマノアカラニカナシクイサヨクマラシカフ

あゆみ免 アカラサマノアカラニカナシクイサヨクマラシカフ

あゆみ免 アカラサマノアカラニカナシクイサヨクマラシカフ

あゆみ免 アカラサマノアカラニカナシクイサヨクマラシカフ

あゆみ免 アカラサマノアカラニカナシクイサヨクマラシカフ

あゆみ免 アカラサマノアカラニカナシクイサヨクマラシカフ

あゆみ免 アカラサマノアカラニカナシクイサヨクマラシカフ

修理ニケルニ麻柱ヲ結テ畧麻柱共結タル中
 ニニ廻テ畧麻柱ノ上様ヲ見ル程ニ麻柱ノ中
 ニ落迫マリテ畧麻柱ニツメラレニケル也畧
 麻柱ニ蹴ツメラレテ○同廿五ニ麻柱十トヲ
 結テ下スヘキ方モナキ峯ナレハ○古本今昔
 十圍王造百丈石卒此工ノ末ク卒堵婆ノ上ニ
 有ル耽ニ不可下モテ麻柱ヲ一度ニハラクト
 今壞メツ○玉晴間

あゝゝゝ

あゝゝゝ
あゝゝゝ
あゝゝゝ

和名亭アハハウヤ ○宇川保アハハ 家ノあゝゝゝ
珍逸雜狀 好忠 杖用ハ次カウツソノあゝゝゝ
家集ニ句 ありまかふまき
法句 いうまを
堀川集 二月廿四日 いうまのあゝゝゝ
 草うまあゝゝゝの里あゝゝゝのあゝゝゝ
 源東屋 あゝゝゝ又カあゝゝゝあゝゝゝあゝゝゝ
 同 同 うらあゝゝゝ○伊勢お詔

あゝゝゝ 不溢 ありあゝゝゝ考

源 玉うまあゝゝゝあゝゝゝあゝゝゝ
河考 經云 滿而
不溢 ○あゝゝゝ
 〇方十九食國之四方之人 年母安夫た波

學苑 とよのついで
和泉歌詠集の事と人ありくとて
 あはれゆに あはれゆに
源氏物語を抄く
笠上ノ方一
江次房
かえ
姫君

あはれゆ 素彩

長明無名下 近体古体論

うほめて あはれゆ

あはれゆ

あはれゆ あはれゆ

月詣集序 あはれをい

○同雑上 あはれゆ

続詞苑 戯笑 多系任衛

小町集 延喜の伊時
ちとせ
あはれゆ
あはれゆ
あはれゆ

山家集下 コカ

全葉雜下 能因

新古今神祇

あはれ人 泉郎

あまのねーあまのねーあまのねーあまのねーあまのねー

十雑中 橋甚長

あまのねーあまのねーあまのねーあまのねーあまのねー

○

五言

あまのねー 我佛

あまのねー
あまのねー

竹取あまのねーあまのねーあまのねーあまのねーあまのねー
あまのねーあまのねーあまのねーあまのねーあまのねー

仲文集

あまのねーあまのねーあまのねーあまのねーあまのねー
あまのねーあまのねーあまのねーあまのねーあまのねー

あまのねーあまのねーあまのねーあまのねーあまのねー

あまのねー

あまのねーあまのねーあまのねーあまのねーあまのねー

あまのねーあまのねーあまのねーあまのねーあまのねー

あまのねーあまのねーあまのねーあまのねーあまのねー

あまのねーあまのねーあまのねーあまのねーあまのねー

あまのねー

あまのねーあまのねーあまのねーあまのねーあまのねー

拾三

あまのねー

後撰雜引 きんご 人々 あひま くる あひま くる あひま くる

の四つ アカラサマニ なる アカラサマニ なる アカラサマニ なる アカラサマニ なる

武紀 アカラサマニ 忽之 イッソク 同出 オモヒノナカニ 其不意 アカラサマニ 〇雄畧紀 イカリヤ 噴指 アカリシ 從草中 アカラサマニ 〇神

暴出 アカラサマニ 〇同取 アカラサマニ 急歸家 アカラサマニ 〇同取 アカラサマニ 假歸国 アカラサマニ 〇皇極紀 アカラサマニ 急

〇偷閑 アカラサマニ アカラサマニ 〇

あきめ 秋宮ヲ秋ノ涼山ニて 〇

尚書會序 清神 〇 秋ノ涼山ニて 〇

万代々 師 アカラサマニ 〇 秋ノ涼山ニて 〇

〇の奇に アカラサマニ 又 アカラサマニ 〇 秋ノ涼山ニて 〇

あき 保憲女集 〇

〇 保憲女集 〇 保憲女集 〇 保憲女集 〇

あき 拾玉 〇 朝姿 〇

〇 拾玉 〇 拾玉 〇 拾玉 〇

あき 百代々 〇 百代々 〇

〇 百代々 〇 百代々 〇 百代々 〇

〇 新六 〇 新六 〇 新六 〇

#

宇部保 為因 ありき けり 一をけり
和泉式部集 あつき ありき けり 一をけり 三月廿六
あつき ありき けり 一をけり 三月廿六
支木 卅六

あしあし 垂跡

隆信集下

あしあし 衣珠

あしあし ありき けり 一をけり 三月廿六
源氏明石 信玄の神遊まはるるをきりて ありき けり 一をけり 三月廿六
あしあし ありき けり 一をけり 三月廿六

あゆみ 十六夜日記

あゆみ ありき けり 一をけり 三月廿六

あゆみ

和名抄 ○今物語にも一火のしきありき

あゆみ ありき けり 一をけり 三月廿六
山家集下 詞書可考
あゆみ ありき けり 一をけり 三月廿六

あゆみ

源少女 清あゆむきひつゝるい 方言の ○河尼額 ○

あふふ草 危草即離根草

枕冊子三廿五

あふふ草 危草即離根草
にふのもしけぬあふふき ○ 訓詁 親身岸額離根草 ○

あみさき 荒神

源氏 総角 何りさきいせぬ人 あふふき 神そつ

きさきつ 益能因家枕言人の中をまける神 ○ 袂衣

一 下 物のあはれ あみさき 平家物語

あふふ草 山家集下

あふふ草 山家集下

あふふ草 詞難下 増基

あふふ草 拾玉四

あふふ草 全集難下 不軽品のみ 是雅法師

竹取前出ていそく あふふ草 西行

新刊撰 友別

いかにせんあはれしなほのこころにけり眼ももほあはれあはれ

六百番分合 兼宗

あはれしなほのこころにけり眼ももほあはれあはれ

長秋詠草上

あはれしなほのこころにけり眼ももほあはれあはれ

拾遺原草上

あはれしなほのこころにけり眼ももほあはれあはれ

和訓栞

万代為又

○臆断

○屋代イセ

あわらうら

五代雜三 為持大傳

あわらうらのあわらうらあわらうらあわらうらあわらうらあわらうら

新六 あわ 先後

黒本拾玉

あわらうらのあわらうらあわらうらあわらうらあわらうらあわらうら

山家集

あわらうらのあわらうらあわらうらあわらうらあわらうらあわらうら

あわらうら

後拾雜四人してあわらうらあわらうらあわらうらあわらうら

難上いふゆゑ人をもあわらうらあわらうらあわらうらあわらうら

あわらうら

散木夏五月五日東をるるあわらうらあわらうらあわらうらあわらうら

あわらうらのあわらうらあわらうらあわらうらあわらうらあわらうら

竹取いりちりくわのむきふん言いぬんよ。○大和
をのむらん言いぬんよ人の國へいきり。○今昔十九
只手足ノ向タラム方ニ行テ尋ニト思ヒテ○
同同十一 只向タラム方ニ可行キ也○同世一十四
足ノ向タル方ニ走ルホトニ○

あしむのむくみ 足結組

源繪

あしむのむくみ

源東屋あしむのむくみをむくに時をきくふいてはてはむかひあ

ふ 河室也上人
花紀傳三

あしむのむくみ

隆信集下 五十 せの中あしむのむくみをむくに時をきくふいてはてはむかひあ

ら〜してうせぬんと思ふ。○宇治拾遺三十八 せの中あしむのむくみをむくに時をきくふいてはてはむかひあ

あしむのむくみをむくに時をきくふいてはてはむかひあ

うきぬ上もあしむのむくみをむくに時をきくふいてはてはむかひあ

あしむのむくみ

あつきをぬしは 人をかたむきをきくにあら。○おほい人のも

讚岐日記 あつきをぬしは。○あつきをぬしは。○あつきをぬしは。

あつきをぬしは あつきをぬしは。○あつきをぬしは。○あつきをぬしは。

あつきをぬしは あつきをぬしは。○あつきをぬしは。○あつきをぬしは。

あつきをぬしは あつきをぬしは。○あつきをぬしは。○あつきをぬしは。

あつきをぬしは あつきをぬしは。○あつきをぬしは。○あつきをぬしは。

あつきをぬしは あつきをぬしは。○あつきをぬしは。○あつきをぬしは。

あつきをぬしは あつきをぬしは。○あつきをぬしは。○あつきをぬしは。

あつきをぬしは あつきをぬしは。○あつきをぬしは。○あつきをぬしは。

あつきをぬしは

袂衣 一下 五〇 今昔廿九 十五 あつきをぬしは あつきをぬしは。○あつきをぬしは。

あつきをぬしは

あつきをぬしは あつきをぬしは。○あつきをぬしは。○あつきをぬしは。

あつきをぬしは

五代秋上 巨唐

あつきをぬしは

青侍 あつきをぬしは。○あつきをぬしは。

袂衣 一下世三

そのあををまきしをよむにけりて命をえぬ

つくまえまふあをを道か袂衣を

寫していづく

八言

あゆみのくちをまき

土佐日記

○深妻女集詞

あしき風あて

清慎集

あぢきりてよまきまのくちをまきあしき風にあて

源 ころもほ

十二言

あぢきりてよまきまのくちをまき

百代春下

十三言

あぢのしをまきまのくちをまき

源氏須磨あぢのまきをまきまのくちをまき

あぢのまきをまきまのくちをまき

あぢのまきをまきまのくちをまき

世ヲサカサシニ

